



日本の暗黒大陸

柴生田 晴四
(経済倶楽部理事長)

退官後に出版された『団塊の世代』はベストセラーになっただけでなく、その後の社会に大きな影響を与えました。

▼日本社会を巡る環境の変化や社会構造の問題点を的確に把握し、未来に向けた改革を行うことが今ほど重要な時代はないでしょう。

経済大国に成長した日本は、それまでの社会の在り方を温存するのではなく、より合理的で効率的な社会に生まれ変わることで新たな発展の機会を獲得すべきでしたが、結局そうした転換ができませんでした。特にグローバル化が進み、ITの飛躍的な発展が世界を変えていくなかで、そうした新たな発展の枠組みから取り残されていくことになりました。

▼堺屋さんは、こうした日本経済の停滞の原

▼堺屋太一さんがお亡くなりになりました。

1月に行われた財界賞の表彰式の際にインフルエンザという事で欠席されましたが、まさかそのままお亡くなりになるとは思いませんでした。堺屋さんといえば、旧通商産業省（現経済産業省）の官僚時代に1970年の大阪万博を提案し、プロデューサーとして成功に導いたことで知られます。官僚時代に著した近未来小説『油断』で注目され、

因ついで、日本社会に横たわる暗黒大陸の存在を挙げられたことがあります。かつての通商産業省の管轄下にあった製造業の多くは、世界で競争する中で鍛えられていきました。

しかし、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、文部科学省が所管する事業は、いまま世界の潮流から隔絶され、不効率で遅れた暗黒大陸として存在しているというわけです。

▼政府や官僚の管理下で新規参入が阻害され、市場を通じた合理的な価格形成と効率的な資源配分が行われない結果、何が起きているのか。こうした分野では、国際的にみて割高で劣悪なサービスが横行しているにも関わらず、膨大な財政赤字を積み上げる結果になっ

▼規制を撤廃すればすべてがうまくいくわけではありません。公平で公正な競争を通じて最適な資源配分が行われるためには、技術の発展と社会の変化に応じた新たなルールの確立が不可欠です。しかし、それは既得権益を擁護し、権力による恣意的な管理を強化するものであってはならないのです。

▼劣悪な労働条件と低い生産性を温存してきた暗黒大陸を既得権益と官僚支配のくびきから解放すれば、日本社会は新たな発展の機会を手にすることができるよう。団塊の世代が後期高齢者の仲間に入っていくこの5年間に変化を遂げることができるかどうか。それが堺屋さんのわれわれに残した宿題です。